

## ご挨拶 -Top Message-

「ふれる・つなぐ・かえる」をコンセプトに、人々がより豊かに暮らせる社会をわたしたちのDXで創造していきます。

### 持続可能でより豊かな社会の実現に向けて

当社は、1940年に金属洋食器などを製造する「株式会社金岩工作所」として設立以来、高度な技術・ものづくりをベースとした製品・サービスで金融・流通・産業・公共などのさまざまな分野でお客様のビジネスの発展を支え、豊かな社会づくりに貢献してきました。創立80周年となった2020年は、富士通グループ間における連携強化によるシナジー創出などを目的に富士通株式会社の完全子会社となった節目の年になりました。

世界に目を転じると、依然として新型コロナウイルス感染症の流行が続き、わたしたちの生活様式や仕事の仕方などいろいろな場面でパラダイムシフトが起きており、これまでの常識が通用しないニューノーマルで不確実な時代に突入しています。

そのような中、当社グループは2021年4月、「お客様最前線のDX企業」を目指し、ビジネス分野ごとに垂直統合型組織へ組み換え、ソリューション・サービスビジネスグループとグローバルビジネスグループの2つのビジネスグループに再編しました。今後は、金融・流通・公共・製造・グローバルなどの業種ごとに最適なソリューションをお客様へよりスピーディーに提供していきます。

わたしたちの製品にお客様が「ふれる」、それにより企業や社会と「つながる」、そして人々がこれまでになかったサービスを楽しむ世界に「かえる」、この「ふれる・つなぐ・かえる」をコンセプトに、企業やその先で暮らす人々がより豊かに暮らせる持続可能な社会をDXで創造していきます。

### 重要な環境課題への取り組み

当社グループでは、気候変動や資源循環など環境にかかわる要素を評価し、特に重要と判断したものを重要課題として特定し、その解決策として「富士通フロンテックグループ環境行動計画」を策定・実践することで、持続可能な地球環境の保全に努めています。

「第10期環境行動計画」（2021～2022年度）では、「気候変動への対応」、「資源循環の促進」および「独自設定テーマ」の3つの取り組みを計画しました。「気候変動への取り組み」においては事業活動におけるGHG排出量を2013年度比で24%以上削減するとともに、全使用エネルギーの8%分の再生可能エネルギーを導入。加えて、製品の使用時電力によるCO<sub>2</sub>排出量を2013年度比で17%以上削減。「資源循環の促進」においては新製品の資源効率を2019年度比で10%以上向上。「独自設定テーマ」においては廃棄物発生量を2012～2014年度平均比で27%以上削減、SDGs貢献ソリューションの開発・提供、および良き企業市民としての活動を指標に掲げ、従業員全員で活動を推進しています。

また、2050年までに自らのCO<sub>2</sub>排出ゼロエミッションを掲げた富士通グループの中長期環境ビジョン「FUJITSU Climate and Energy Vision」では、SBTiにおける1.5°C目標への変更に伴い、2030年までに71.4%削減というチャレンジな目標に挑戦することになりました。達成に向けては、再生可能エネルギーの導入を中心に取り組みを加速していきます。さらに気候変動への適応についてもリスク・機会を分析し、当社グループのレジリエンスを強化していきます。



代表取締役社長 川上 博 彦